

感染症についてのお知らせ

墨田区保健所 保健予防課 感染症係
電話 03-5608-6191(直通) FAX 03-5608-6507

令和8年
10月号



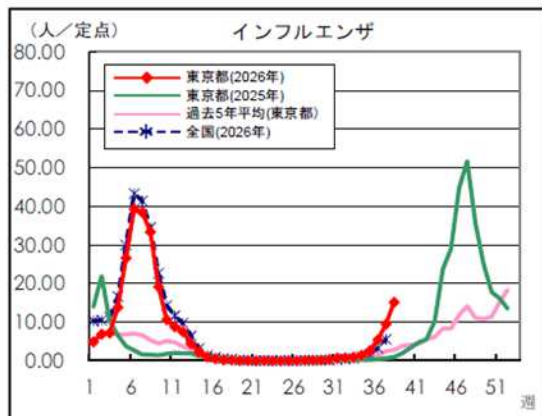
東京都内の感染症流行情報

出典：東京都感染症情報センター「東京都感染症発生動向調査週報」

第38週（9月14日～9月20日）の流行情報（定点医療機関あたり報告数）

インフルエンザ

東京都 15.21（前週 9.53）
墨田区 12.63（前週 9.13）

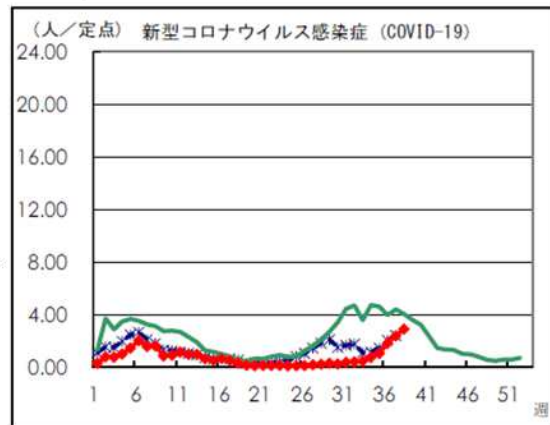


都内・区内ともに
の報告数は
増加しています。

感染者が徐々に
増えており注意
が必要です。

新型コロナウイルス感染症

東京都 2.92（前週 2.41）
墨田区 2.88（前週 2.88）



インフルエンザについて

出典：東京都健康安全研究センター

▶どんな病気？

- ・インフルエンザウイルスによる呼吸器感染症です。おおよそ12月から3月にかけて流行します。
- ・潜伏期間は1～3日で、発熱、頭痛、咳、咽頭痛、鼻水、筋肉痛、関節痛などの症状がみられ、通常の急性上気道炎（かぜ）に比べ全身症状が強く出やすいという特徴があります。
- ・多くの人は1週間程度で体調が回復しますが、高齢者や乳幼児、心疾患など基礎疾患がある方は肺炎など重症化することがあります。

▶どうやってうつるのか？

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるウイルスを吸い込むことによる「飛まつ感染」が主たる感染経路ですが、ウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」もあります。



▶予防方法は？

□十分な休養とバランスのよい食事

日ごろから十分な休養とバランスのとれた食事での栄養摂取を心がけましょう。

□正しい手洗い

流水・せっけんによる手洗いは、個人衛生対策の基本です。外から帰ったとき、食事の前など、しっかり30秒手を洗いましょう。自分の手に付いたウイルスを減らすことができます。流水で手を洗えないときなどは、手指消毒用のアルコール製剤の使用も効果があります。

□空気を入れ替えよう

部屋の空気を新鮮な空気に入れ替えましょう。空気中のウイルスを減らすことができます。

□人混みや繁華街への外出を控える

インフルエンザが流行してきたら、特に高齢の方や基礎疾患のある方、妊婦、体調の悪い方、睡眠不足の方は、人混みや繁華街への外出を控えましょう。

▶ 予防接種について

インフルエンザワクチンは、感染後に発症する可能性を低減させる効果と、発症した場合の重症化防止に効果があると報告されています。



高齢者インフルエンザ定期予防接種について

実施期間：令和8年9月24日から令和9年1月31日まで

対象者：接種日において墨田区に住民登録がある

- ・令和8年12月31日現在65歳以上の方
- ・令和8年12月31日現在60歳から64歳で、心臓・腎臓・呼吸器の機能またはヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能に障害（身体障害者手帳1級）のある方

自己負担金額：2,500円（75歳以上及び生活保護等受給者は無料）

※ 対象となる方へは、予防接種予診票を令和8年9月下旬に発送しました。

※ 接種を希望する方は必ず事前に実施医療機関へお申し込みください。

詳細はこちら
墨田区HP



こどものインフルエンザ任意予防接種費用の一部助成事業について

実施期間：令和8年9月24日から令和9年1月31日まで

対象者：接種日において墨田区に住民登録がある、生後6か月から
高校3年生（年度末時点で18歳以下）までのお子さん

※ 予防接種予診票は、実施医療機関にご用意があります。区からの発送はしていません。

※ 必ず事前に医療機関へ確認のうえ受診してください。

※ 一覧に記載がない医療機関での接種は費用助成の対象外です。

詳細はこちら
墨田区HP



注射での予防接種

1回目接種日時点の年齢	助成回数	助成金額
(1) 生後6か月から13歳未満	期間中最大2回	1回あたり 3,000円
(2) 13歳から高校3年生まで	1回	2,000円

点鼻ワクチン（フルミスト）での予防接種

接種日時点の年齢	助成回数	助成金額
2歳から高校3年生まで	1回	6,000円



疥癬について

出典：地域ケアにおける疥癬対応マニュアル

区内の社会福祉施設から大人、子どもともに疥癬の相談が増えています。

【疥癬とは】

ヒゼンダニが皮膚角質層に寄生することでダニの虫体等に対するアレルギー反応が起こり、激しい掻痒を呈する皮膚疾患です。皮膚の表面の角質層に疥癬トンネルを掘り、好発部位は、手のひら、指の間、肘、足などです。

【診断と治療】

他の皮膚病と症状が似ており、疥癬トンネルを見つけにくいいため、かゆみのある利用者が増えてきたら皮膚科医に診てもらいましょう。治療には人体に使用可能な殺ダニ剤を使用します。

【感染経路】

肌と肌が直接密着することで感染します。雑魚寝、介護など長時間肌が密着する場面。仮眠室や当直室など、布団やシーツ、ベッドの共用を避けましょう。

【標準予防策の実施】

確実な手洗い（1ケア1手洗い）、感染の可能性があるものを直接触らないことが重要です。

地域ケアにおける
疥癬対応マニュアル

